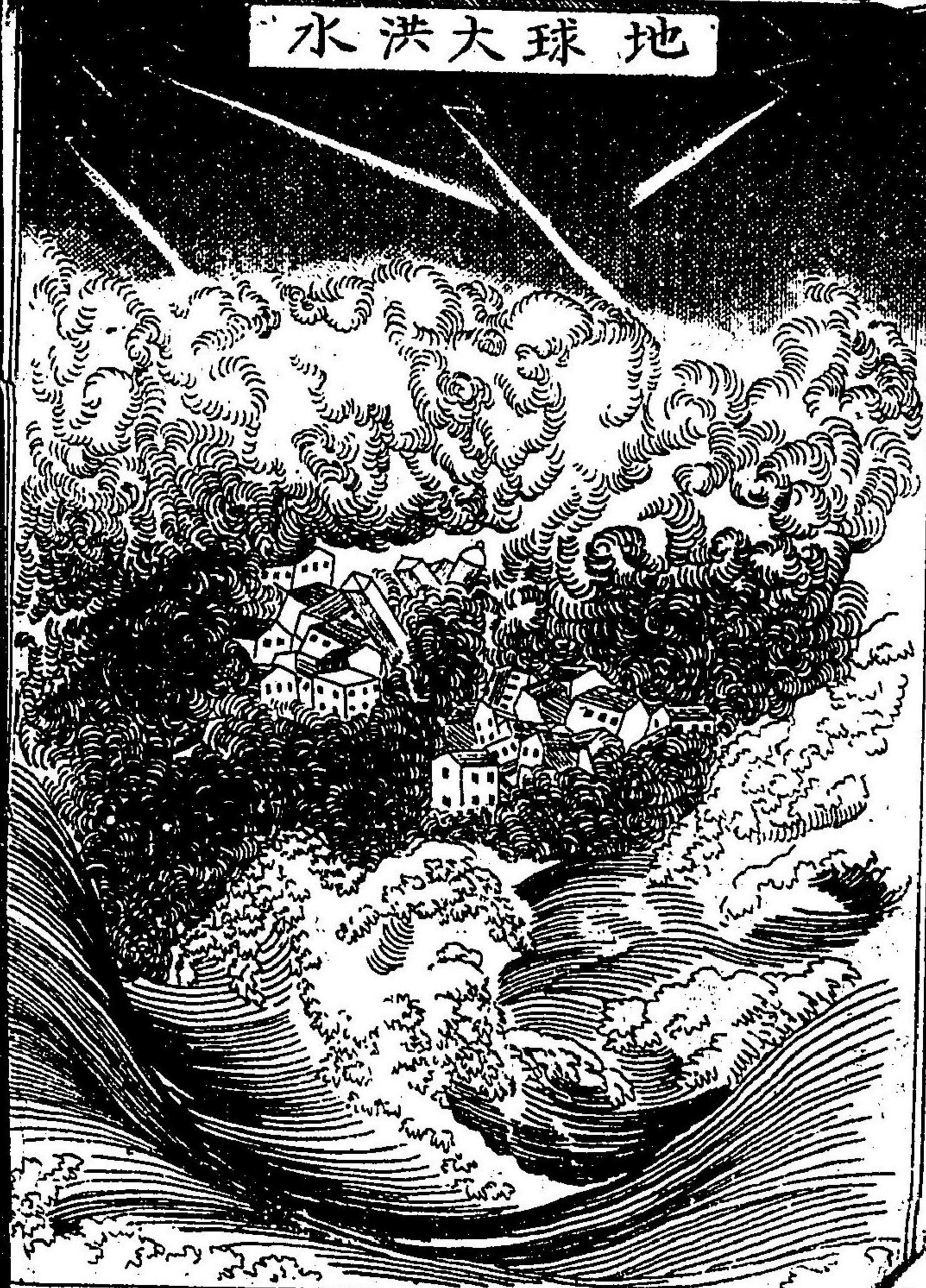


特 59  
771



地 球 大 洪 水











胎兒十ヶ月ニシテ生レント  
スルノ圖

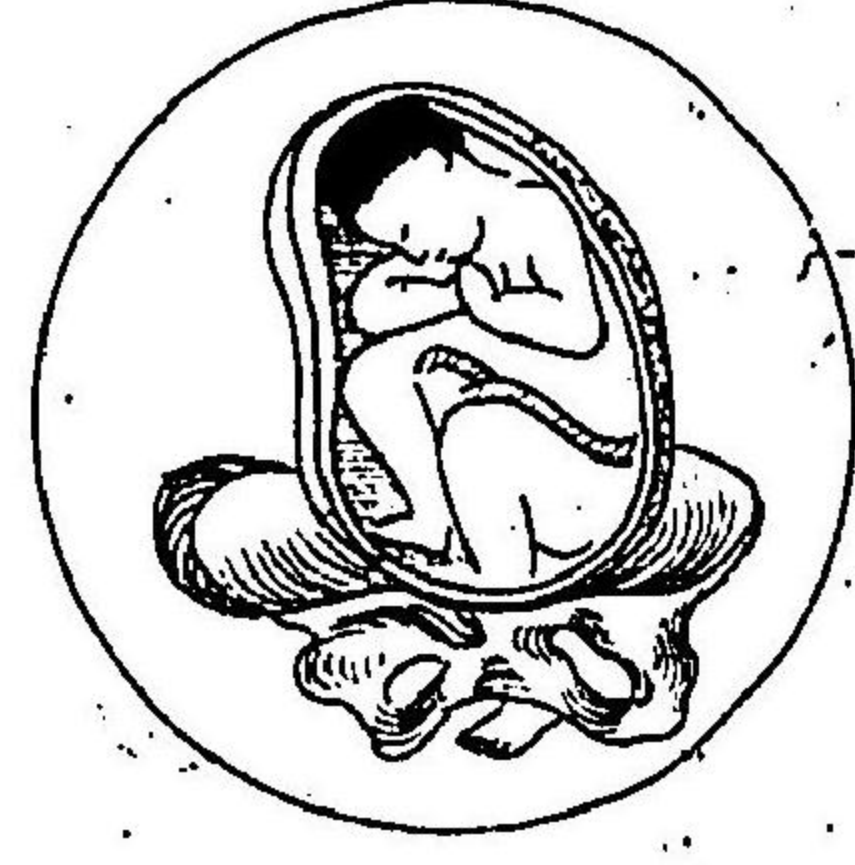
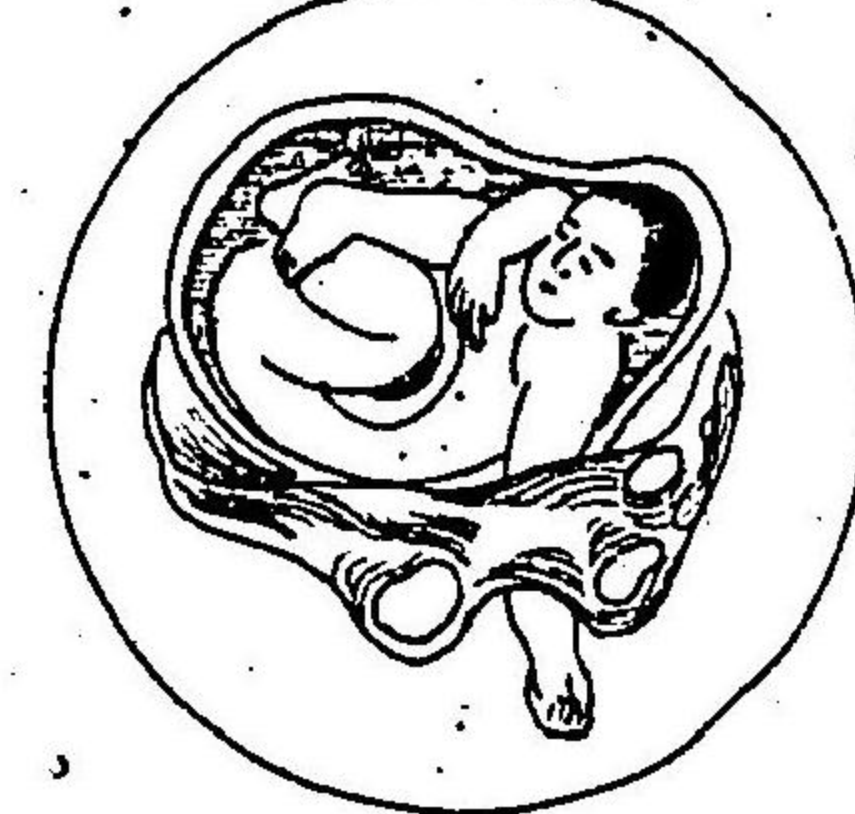
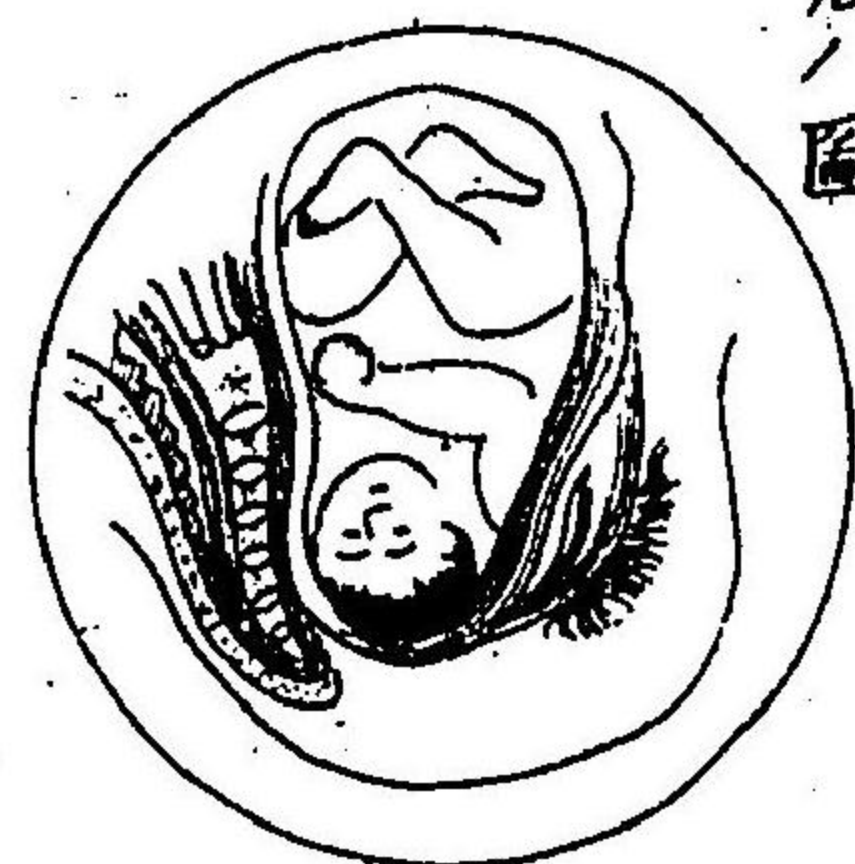
横産ノ圖

逆産脚先ニ出ルノ圖

双胎ノ圖

臀産ノ圖

臀産ノ兒を挽出ルノ圖



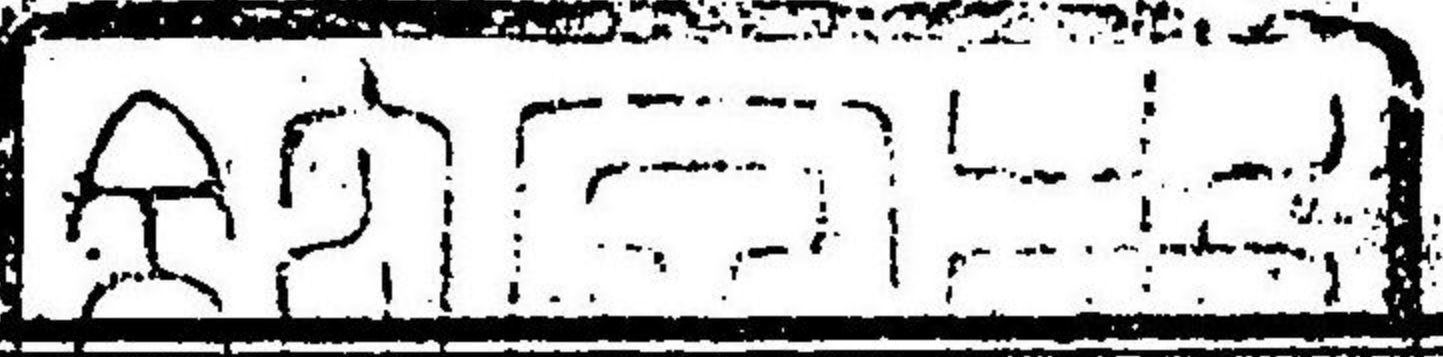


造化懐妊論 目錄

陰莖 同圖  
 陰莖 同圖  
 精囊 同圖  
 陰經比論  
 外器 一名陰處 同圖  
 陰山  
 大陰唇 一名陰唇  
 小陰唇 一名尿翅  
 挺孔  
 陰處  
 尿道  
 處女膜

陰門繫帶  
 會陰  
 內器 同圖  
 腔  
 子宮  
 刺以管 同圖  
 卵巢  
 乳線  
 月經  
 分娩  
 妊婦子宮血脈之圖  
 子宮筋纖維內層之圖  
 同外層之圖  
 兒頭骨盤下口に臨む圖

足月孖胎之圖  
 安産  
 手を以て胎蓋を出る圖  
 子宮收縮よて沙漏形を成る圖  
 難産  
 腎部先出時頭部を引出る圖  
 鑷子と腔に入る圖  
 鑷子と以て兒頭を挟む圖  
 兒頭と碎破し鑷子の圖  
 同く手術之圖  
 同く割出之圖  
 ウグチス 器械を用る圖  
 乳線之圖  
 目錄終



造化懐妊論

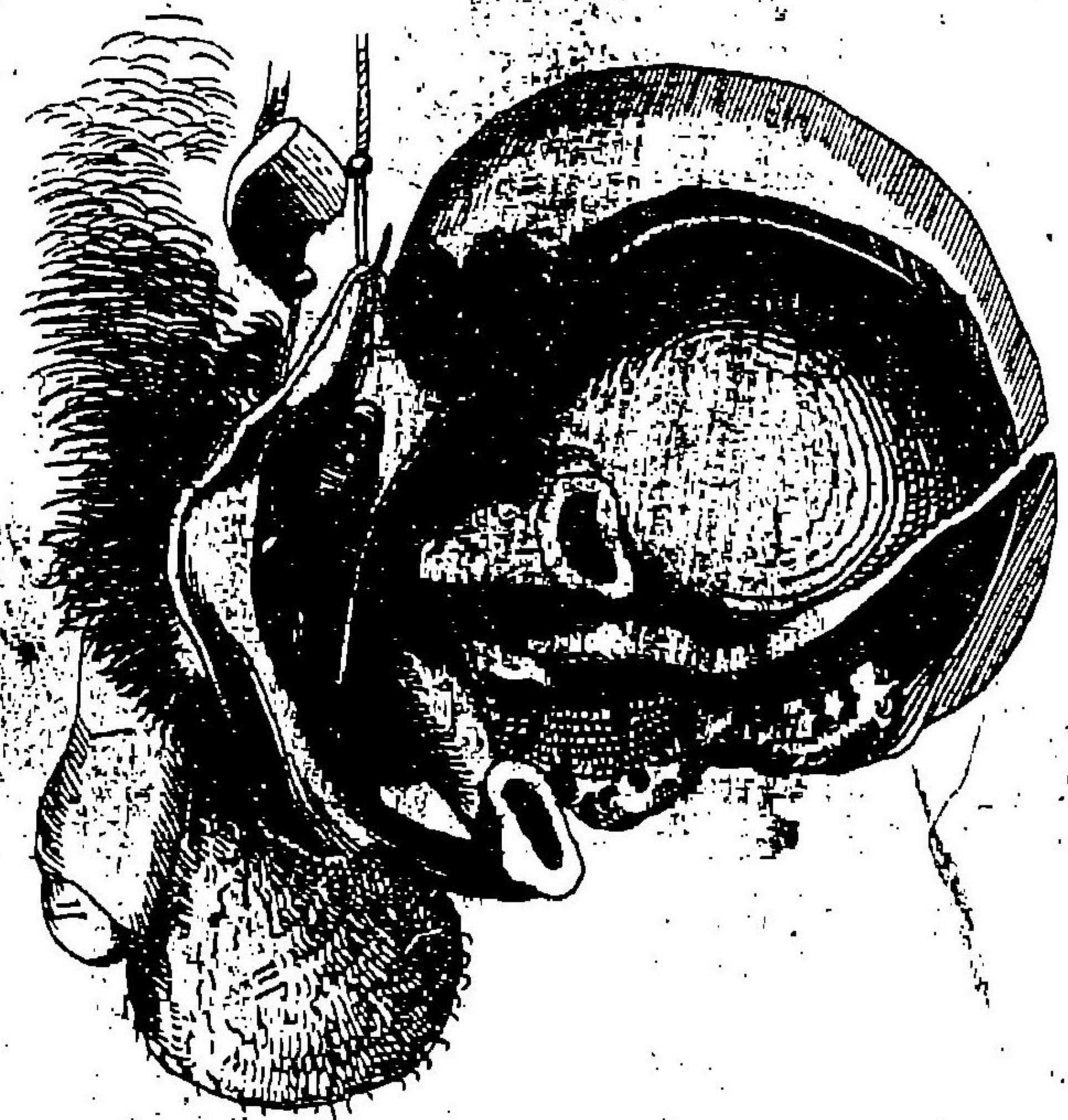
陰莖ハ根幹龜頭の三部分に分たり其龜頭の形状は於て其の上端には尿を輸り出す爲の穴あり又其幹は三の圓形より成り立ち之を區別すれば即ち二つの空の洞体とす其の洞体より成り立ち又此兩空の洞体ハ各強き纖維にて掩われ又其内にも細脈勃張組織を包み又其兩空洞体の間ハ中隔ありて之を隔つ而して海綿體は空の洞体の接し所の下即ち陰莖の根より起り龜頭の

畢丸ハ卵形此線よして二つの精系より申りて陰囊の中に掛



るものなり又其背面に副管といふ長くして狭き形状のものありて上端は下端より大きく其上端を大球といひ下端を小球と言ふ又其大球は衆くの管を以て翠丸の上部と連り小球は其下部と白き膜とに連れり又總て左の掛所の翠丸は稍々右の翠丸より其形状大なるを常とす翠丸は大なる又小なる球か二百五十個より四百個位集りて成るものにて其球は圓錐のやうな形状をなし三個又ハ四個此細精管が總れ纏ひてこれをなすも此なり又此細精管を解き延せは直經は零厘四毛より五毛程又其長さは尤も長き細管にて其數ハ三百乃至八百もありて更に一葉此細毛此管にて其周圍を圍繞き其小球は後部に至りて直經一厘六毛程ある二十又は三十此直管となる

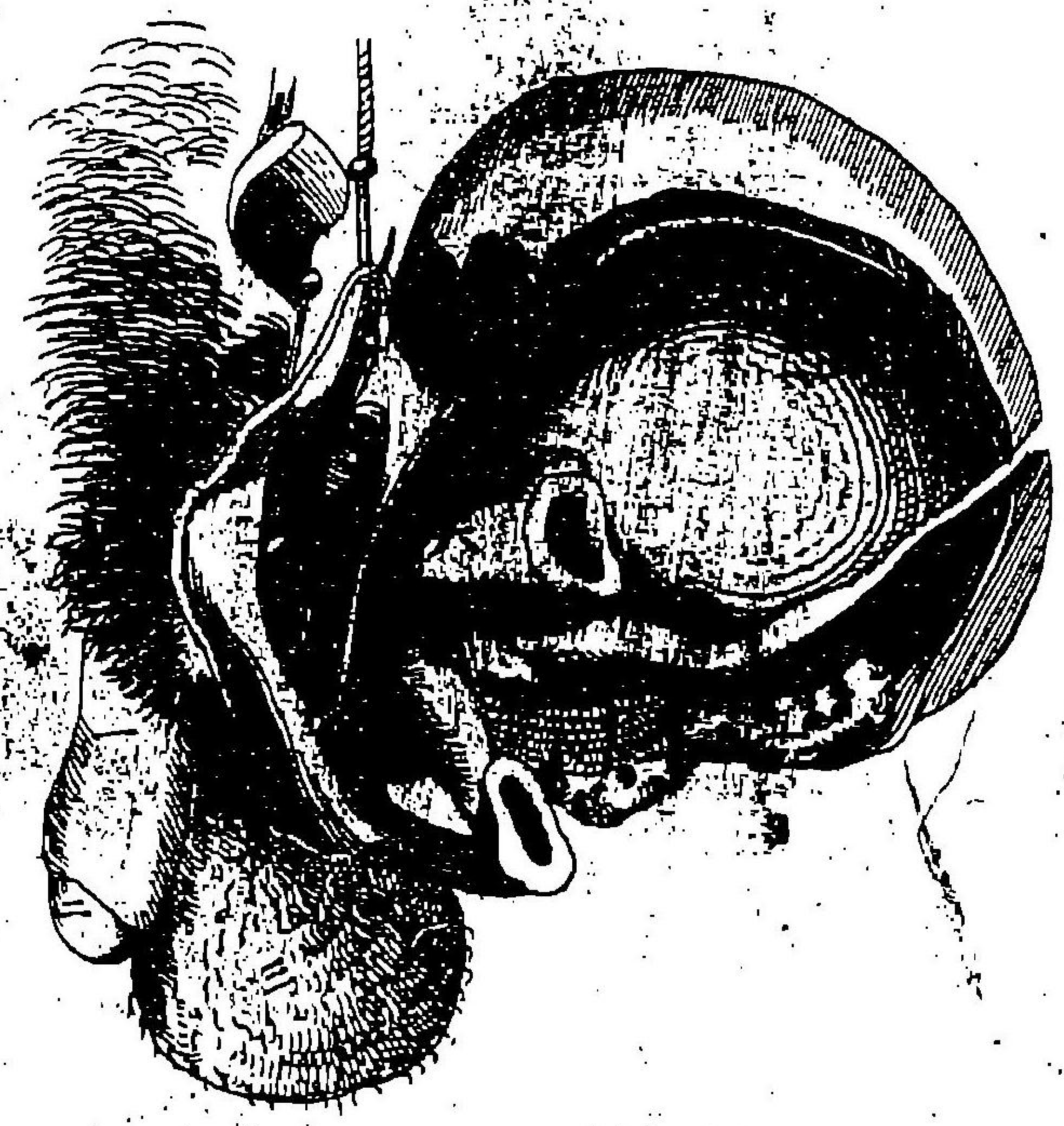
- 一 陰莖
- 二 龜頭
- 三 陰囊
- 四 膀胱
- 五 精囊
- 六 攝護線
- 七 輸尿管



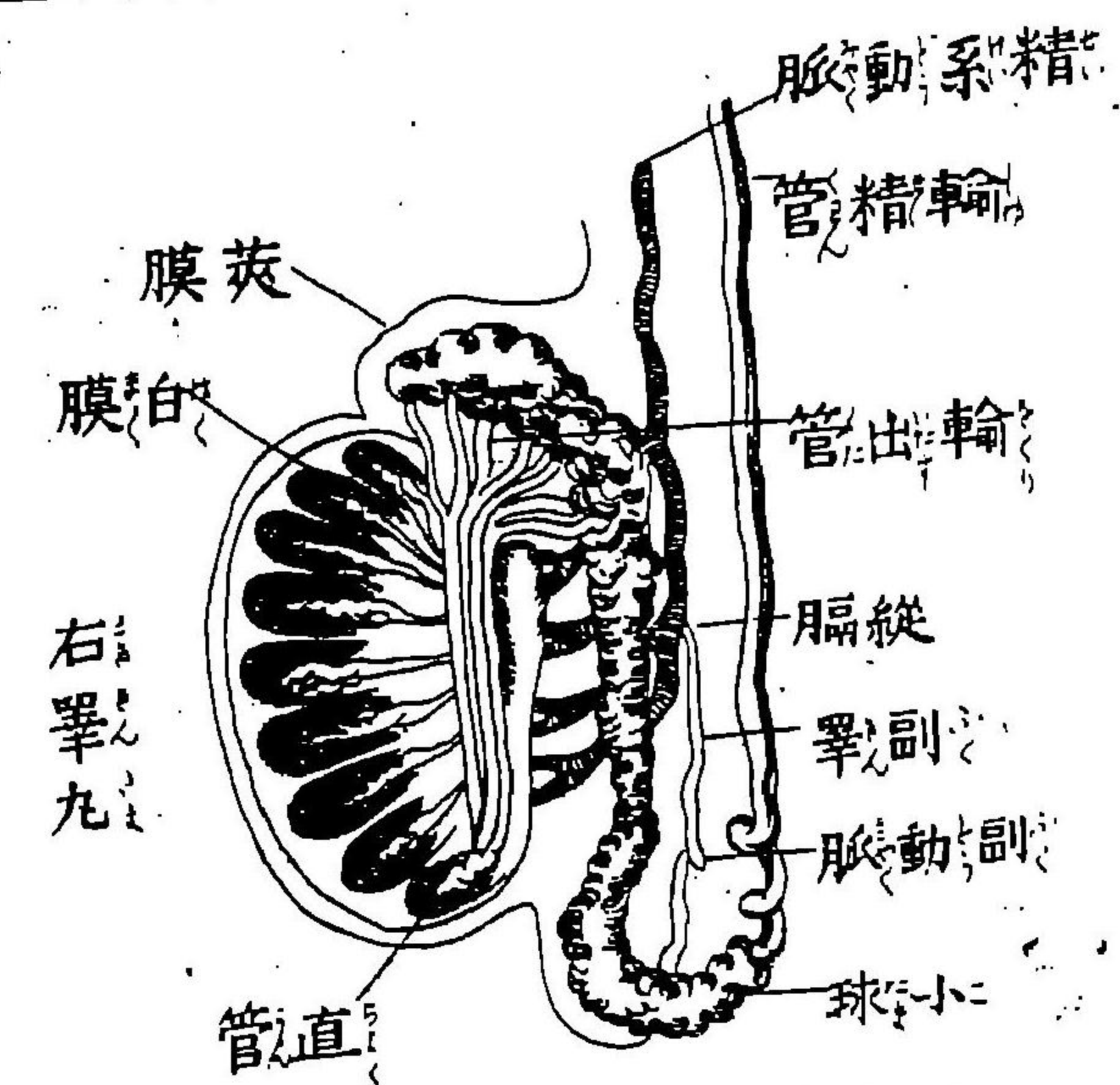


るものなり又其背面に副睪といふ長くして狭き形状のものありて上端は下端より大きく其上端と大球といひ下端と小球と言ふ又其大球は衆くの管を以て睪丸の上部と連り小球は其下部と白き膜とに連れり又總て左に掛る所の睪丸は稍々右の睪丸より其形状大なるを常とす  
 睪丸は大なる又小なる球か二百五十個より四百個位集りて成るものにて其球は圓錐のやうな形状をなし三個又ハ四個此細精管が纏れ纏ひてこれをなすも此なり又此細精管を解き延せは直徑は零厘四毛より五毛程又其長さは尤も長き細管にて其數ハ三百乃至八百もありて更に一葉此細毛此管にて其周圍を圍繞き其小球は後部に至りて直徑一厘六毛程ある二十又は三十此直管となる

一 陰莖  
 二 龜頭  
 三 陰囊  
 四 膀胱  
 五 精囊  
 六 攝護線  
 七 輸尿管







直管の末ハ上方  
 以上行きたり  
 諸管と連接り以睪  
 丸の細なる又此  
 睪丸細の上端八十  
 二乃至十五の輸出管  
 一連り白膜を貫き  
 て副金に通じ諸管  
 の形此に至りて太  
 くなり纏れ纏ふて  
 圓錐管となし副睪  
 の上の端即大球を

下りて副睪の小丸に至れハ諸管ハ一管一連接りて益々  
 纏纏ふ又此管を解き延せば二十尺よりも長きものなり  
 といふ輸精管ハ此管の末にして副睪の背面に於て小丸よ  
 り上の方に上り行き精系を経て下腹に入り遂に膀胱の底  
 に至りて太なり又細くなり精囊に連り射精管と成者ナリ

睪丸の落着

兒子胎中にあるの初めには其睪丸は腹の内腎臓の下に  
 ありと雖も第七月目より下り初め第八月の終りには陰囊  
 の裡に落ち着くと常とす又胚胎の初めには女兒の卵巣と  
 男兒の睪丸と其位置を同ふす又女兒の子宮の圓韌帯には  
 睪丸の落着と相似たる變動ありとのなり

精囊



精囊は小球膜囊にして膀胱直腸の間に入りて左右の兩囊に分れたり是れ精液を貯ふる所の器にして囊中別に自己の分泌ありて精液と混合る又其長さは二寸廣さは四分ありと常とす然しなるら大小は人に因りて同じからず精囊は直經鬻毛管程ありて長さ四寸八分程ある一本の管の纏纏ふて之に小枝を生じたるものなり又射精管は長さ六分程ある管にして攝護腺の底より起り上の方前面に進み尿道の盤状竇に入る

精蟲は細小ふる織糸にして睪丸中に分泌せる精液中に見るべし其首端ハ卵圓形をなし末ハ細くして尾の如し其形ち恰も蝌斗の如く頭と尾を備るに似て且つ運動あるを以て小虫なりと云ふ誤謬を惹き出すに至れり又精液を顯微鏡



一てみれば直經零厘二毛程の小精球を含めりといふ

陰經の論

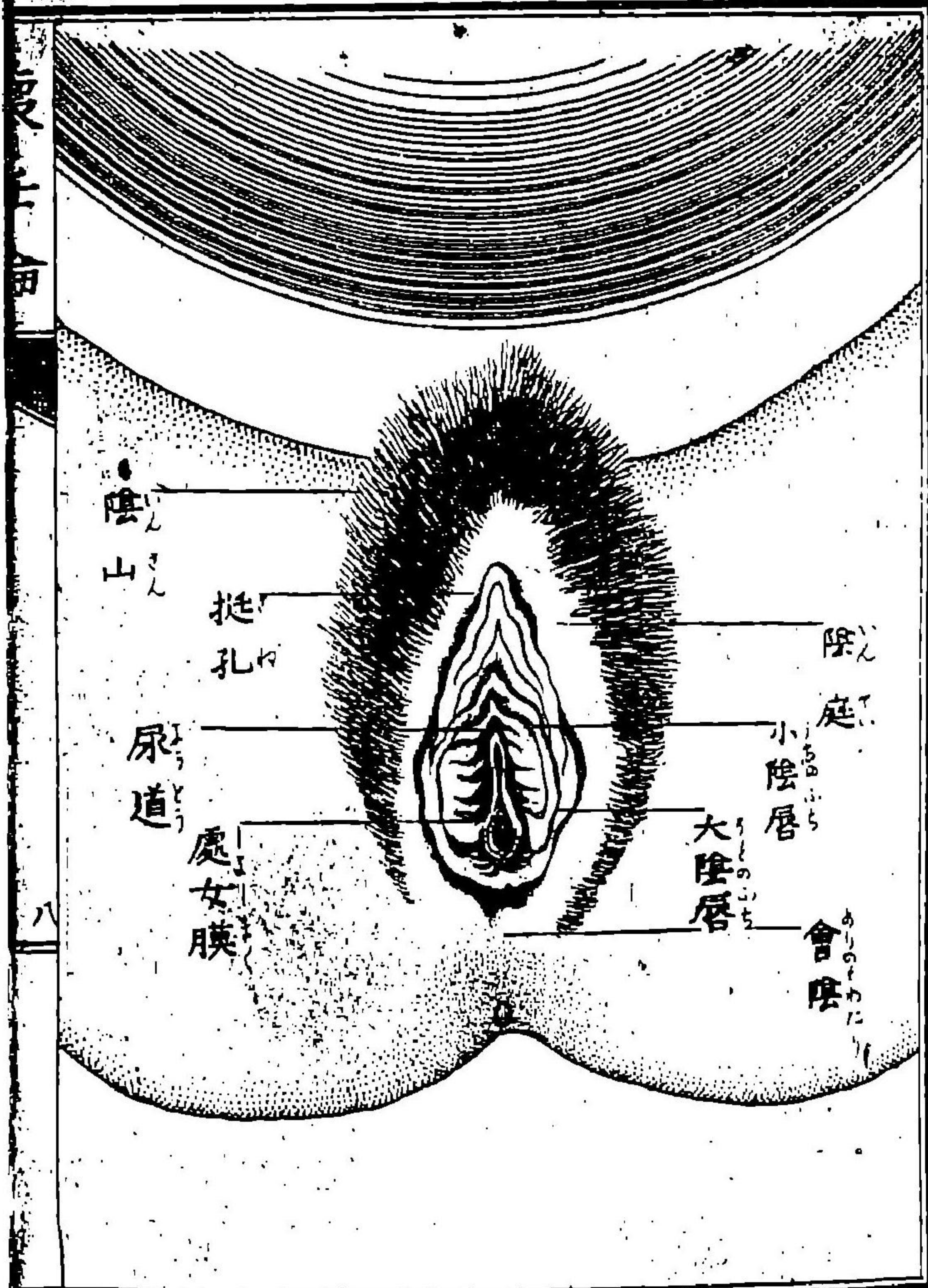
婦人の生殖器は内外の二つに分つ外器陰山大陰唇小陰唇挺孔處女膜なり又内器は膣子宮卵巣刺管也又乳房も生殖器の中一算へ入る、ことあり



外器一名陰處 陰山  
陰山ハ耻骨の合縫の上に掩ひたる坐褥様の高まりにして  
下腹の下元然と高き處則ち是れなり其形ハ三角形にして  
婦人の身熟すれば其上に陰毛を生ず其物ハ蜂窠脂肪の  
二組織より成れり

大陰唇 一名陰唇

外陰唇は陰部を覆ふ兩褶として陰山の下より起り下方に  
至りて陰部の兩傍をなす所なり其外面は陰山の如く陰毛  
を生すべし又内面は粘液膜を以て掩ふ其形上の方は厚く  
して潤く下の方も次第に薄くして捲き其上方の兩唇  
の連なる處を前縫接と云ひ下の方の相連る處を後縫接又  
は陰門繫帯と云ふ其外皮り粘液膜との間には蜂窠脂肪の





二組織神經血管及び腺あり

小陰唇一名尿翅

尿翅も外陰唇の内にある褶ふして粘液膜を以て掩はれ陰部の上の方より起りて陰門の中バに至る粘液膜の間には海綿空洞組織及び神經ありて挺孔尿道及び陰門の中バを掩ひ包み外陰唇同様に弾力ありて擴張べき膜を備へ胎兒の頭を出すに便ならしむる様にしたるものなり

挺孔

挺孔ハ男子の陰莖に似たるものなれとも尿道なく海綿体なし其物たる甚だ感じ易く空洞にして勃起するものなり又其位置ハ恰も尿翅の相合ふ處にあり

陰庭

挺孔の下に滑き處あり其形三角形をなす之ヲ陰庭と云其下邊ハ則尿道の口にして尿道口ハ恰も陰門の上縁に有

尿道

尿道ハ恥骨合縫の下より膀胱に通じ尿を輸り出すところの管にて其長一吋二分程ありて擴張べき膜にて包わり

處女膜

處女膜も陰門の下部を蓋ふ半月形の粘膜にて通常初て男子と交はる時は破裂者なれ共必ずしも然りとせず怪我病等種々此事より破ること有失ふことあり又生れながら無きものあり娼妓に此物存せし例あり然れも醫人の察病に當りて此膜に關係あるよとハ輕々しくなすよと勿れ

陰門繫帶



陰門緊帯し後縫接の内縁として粘液膜より成り初産のときハ通例少く破るものなり

會陰

後縫接と肛門の間を會陰と云ふふれハ外皮及び蜂窠脂肪の二組織より成るものにして半ハ尻骨盤の外孔を塞ぎ子宮の脱出を防ぐの用あるものなり其質弾力ありて擴張ベキも此たれ共子を産むに臨み時としてハ裂おとありとす

内器 腔

腔ハ筋膜管にして其長前壁に傍て測きハ三寸二分より四寸程あり又後壁に傍て測ハ稍長其形ハ子宮頸より下方前面に向て弓成に曲り其入り口の處を陰門と云又腔の内皮ハ粘液膜にして中皮ハ筋膜外皮ハ蜂窠膜也是交接

一 挺孔  
二 大陰唇  
三 小陰唇  
四 尿道口  
五 直腸  
六 膀胱  
七 陰道  
八 子宮  
九 卵巣  
十 耻骨





の時陰莖を容る處して胎兒の産ると又此門よりす

子宮

子宮ハ其形梨子の如く其上部を底(或ハ頂)と云ひ中と體下  
と頸と云々其全長二寸二歩程あり其廣さの最も闊き處  
ハ一寸八分程ありて厚さハ一寸程あり其在る處ハ尻骨盤  
の中心に在て上ハ小腸あり下ハ腔あり前ハ膀胱隣  
り後ハ直腸に接す而して其上の方ハ前に向ひて下の方ハ  
後に向ふを以て腔と相傾けり子宮ハ中空なるものふして  
其入り口を子宮孔と云ふ子宮孔は子宮頸の下端に開けり  
子宮孔の形ハ平區なるものあり圓きあり或ハ三角なるあ  
り殊ニ子を産たる婦人の子宮孔ハ三角なるものふ  
子宮頸の満ハ長さ八寸不どあり入口ハ窄く中項ハ廣く三

角房は入り所ハ作た搾し又三角房の底ハ上ハあるものなり

喇叭管

喇叭管ハ其長さ三寸二分程ある管にして三角房の兩方の  
上角より出て二寸八分程の間ハ其太さ變らば夫より開き  
て漏斗の如き形をふし膜孔に入り胚胎の事有んとすと  
きハ其開きたる處動きて兩卵巢に向ひ卵珠を下し精蟲を  
迎ふるの用をふす

卵巢

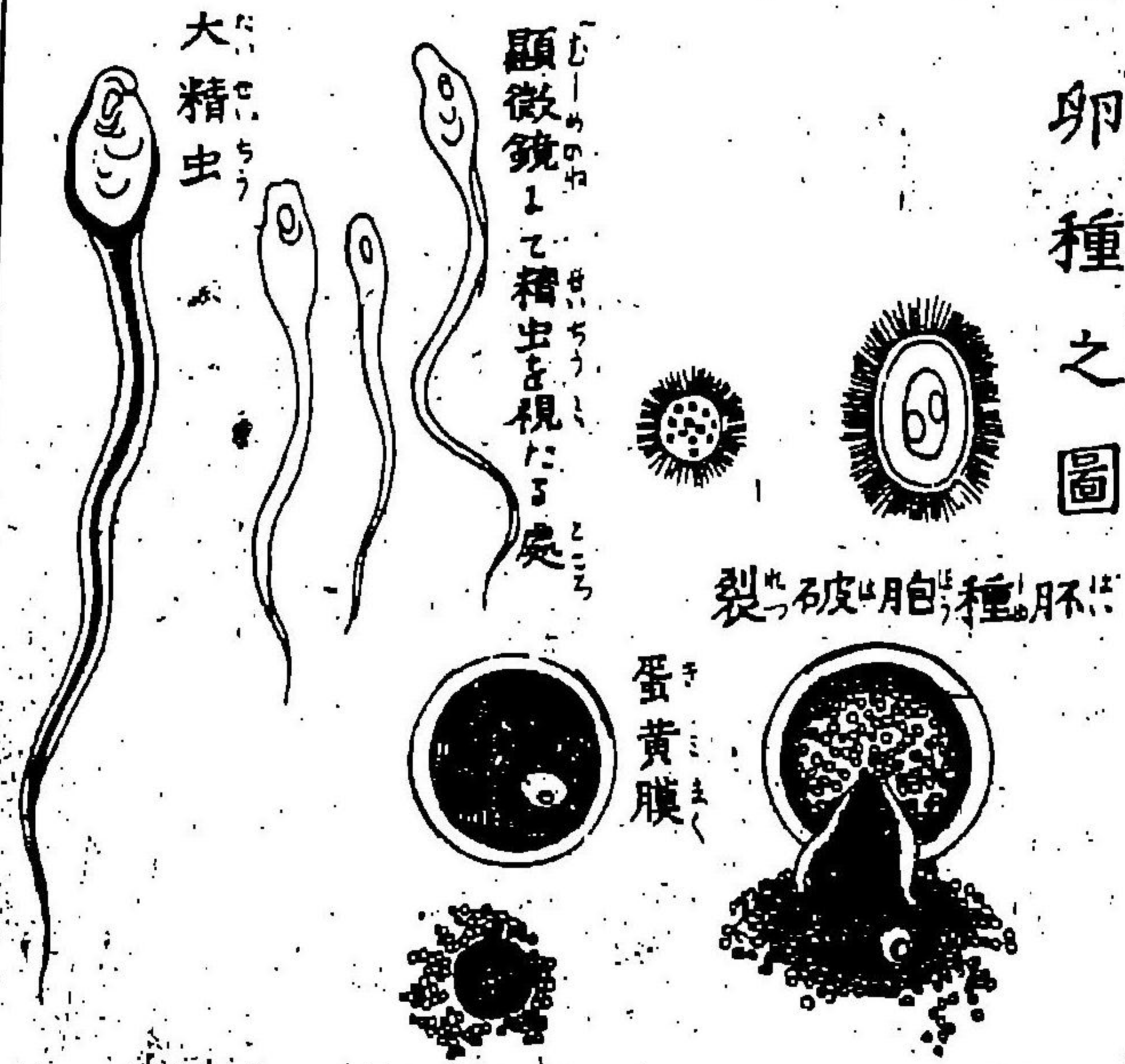
卵巢ハ男子の睪丸の如く生殖器中最要の器なり其形ハ長  
さ一寸廣さ五分厚さ三分程ある區き小体にして子宮の兩  
邊にあり又卵巢の中ハ十乃至二十個の眞喇弗胞を有つ  
其小ふるものハ針頭の如く其大ふるものハ豌豆程有者成





眞喇弗胞ハ圓くして透明  
細胞体ニびて卵球を包む  
なり又其卵球の大きさハ零  
釐四毛四の直径めると常  
とす澄て清らなる流体是  
を包む卵熟すまハ眞喇弗胞  
此形狀大きくなり卵巢此表  
面ニ浮上り遂に破裂して卵球  
を出し又此卵球ハ喇叭管ニ  
子宮ニ入男精に逢ふて胚  
胎せられハ大概經水と共に  
下るも此ふり

卵種之圖



乳線

乳房ハ第三第七ハ  
肋骨間ニ有ニツの  
半球形此線にま  
織維囊を以其上を  
掩ふ此織維囊の末  
ハ線此諸部に入る  
者なり織維此物た  
る無數小管ニし  
て枝を生じ益々分  
れて益々細遂ニ乳  
汁たるべき小胞体



中に入る此小胞ハ細小管中ニ進み入り屈曲旋轉テ漸次大  
小管中ニ集入り線ノ中心ニ達リ十乃至十五此大管に集  
り乳頭此下に集合す乳頭ハ第四肋骨と水平をなし勃張組  
織を有す故に之れに觸れて鼓動すれば忽ち勃張も此なり

月經

人幼きときハ男女の間ニ未だ著しき區別立たざるものな  
り然しながら年漸と長するに及びて一朝忽然に大變化を  
生じ此時より男女の區別判然と志て明らかり此時に達  
たると成年と云ふ即ち男女人となるの時より女子此齡に  
達する時ハ其全身圓くなり尻骨盤ハ廣がり生殖器ハ成熟  
を此時に當りてハ腔より血を流さ之を月經と云ふ此後毎  
月一回の流血ありて多年の間絶ゆることなし

月經ハ地方寒暖の同じるより其初まる齡ハ均し  
からざれども米國にてハ十三歳乃至十五歳より初まり四  
十五歳に至りて終ると常とす懐妊中孩兒に乳を飲ましむ  
る間にバ月經なしとす月經の終り絶ゆる時ハ女身の健康  
に種々此變動あるも此より初めて月經あるときハ兩股及  
び脊に痛を起し且つ頭痛惡寒等ありて神經を病ましむる  
ものあり此後とて初めよりハ少しく減すれども多くハ  
右の如く痛とあるものあり然しながら後ハ全く此痛み  
起らずして平世ニ變りたる婦人もなきにしも非ず  
月經ハ二十八日毎に一回あると正しきも此とす而して其  
日數ハ四日乃至一週間にして平均五日を常とす其平均の  
量ハ四十一分七分程なり然し多寡ハ此概則ト外ブ



凡人毎種カハして一様ならぬものなり

分娩とハ婦人の子宮内に胚胎を子宮の外に産み出す事に於て人類は於てハ胚胎を子宮の外に産み産み落すを正しき分娩とす

分娩は向つての子宮の働作を單に其筋壁の收縮あり而て此收縮は往々列しき苦痛ありて俗に之を陳痛とハハ胎兒を子宮の外に伴ふ事なり

子宮の収縮ハ一陳痛毎に其大きさを減せしめ漸次子宮の内は居る胎兒を子宮の外へ推し出すに至る又其胎兒は其間始終子宮の働作に順従ふものなり  
分娩を終ると雖も子宮ハ收縮することを止めしめて胎蓋を推



血脈の之の圖

妊婦の子宮

子宮筋の内部の組織の圖

子宮筋の外部の組織の圖

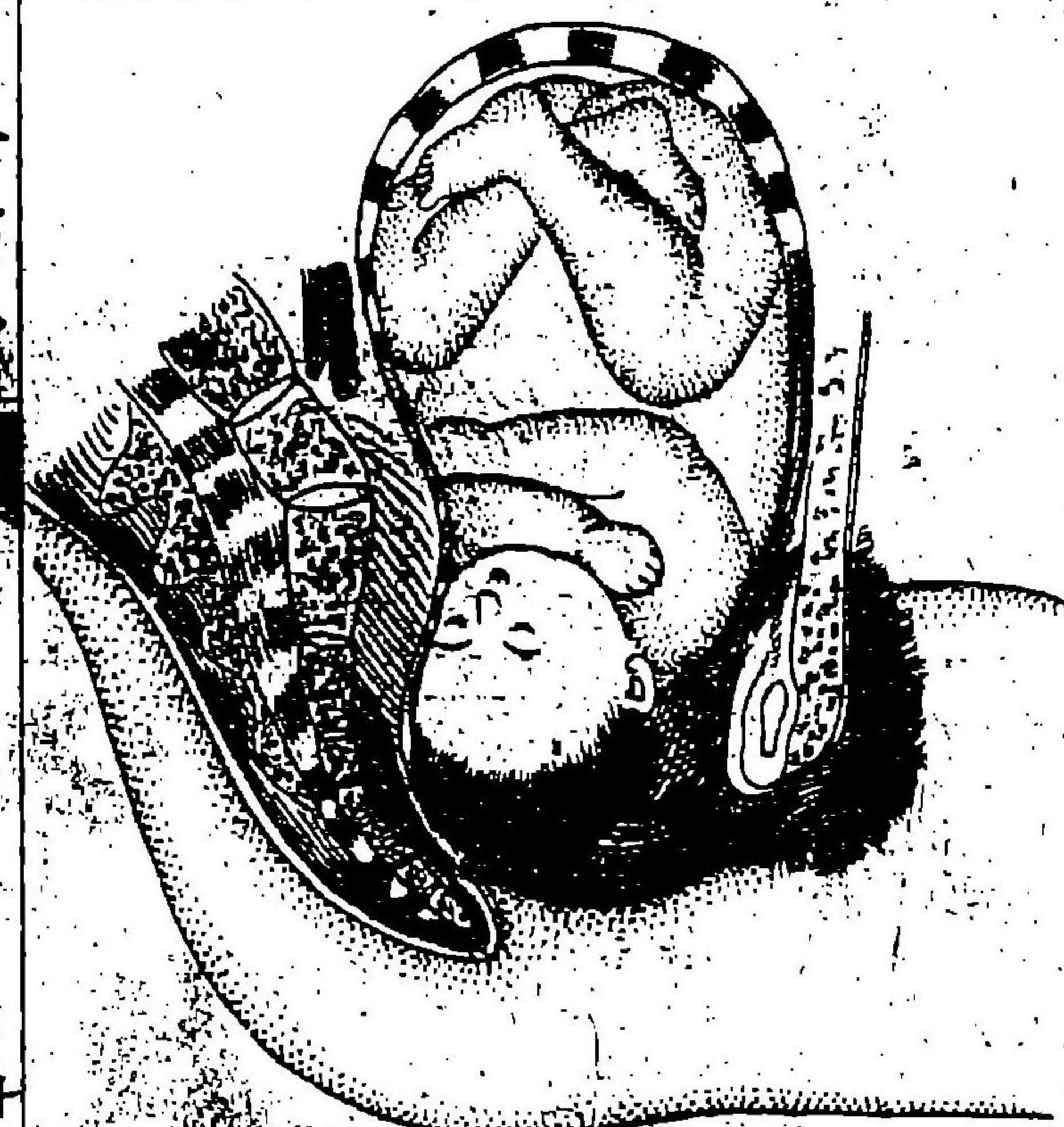
表  
十  
四



出し諸血管の口を閉じ出血を防ぐものなり分娩の種類を區別するを記者は依て各々其所見を異ならせれども其單よして要あるハ安産難産の二種ハ區別するものなり安産ハ其婦人他人の手を借りて能く自ら分娩する者といふ又難産は他人の補助に依り又甚く至りてハ器械の助に因りて分娩するものといふ或る記者ハ頭部先出のみを以て安産となせりといふ

安産  
分娩は初を告る徴候ハ蛋白質此粘液排池と血色赤り膀胱直腹に刺衝及ハ惡心嘔吐を發し或ハ戰慄等ハ殊痛あり分娩ハ之を三段に分ち其徴候各々殊異れハ條を別ちて以て左に掲載す

兒頭骨盤下口は臨む圖



第一段は諸部の開

擴にして三段中時間を費す尤多く身體を疲勞す事最も甚しき者なり此時に當りや産婦も憂心恟々として心中甚く安易あらざ口中には若を唱身を動らして苦痛を忍ぶよ便せんとて其苦痛の甚きよ及び



足月の子

胎之圖



呼ぶ聲は高らされ共顔悲衰を起口は悲衰の聲有顔  
 色に堪え難き此色を顯し其聲の殊異なる一とたび耳  
 入る時ハ終に忘れ難きに及へり又惡心く往々嘔吐氣を發  
 殊に難儀と雖も之等ハ開擴を速とするの益有事と云へり  
 産痛といへるも此ハ通常産前の八丁の圖を參考すへし此  
 上部と背部とあるものとして其痛みに發歇ありて其苦痛  
 の鋭き事さふらり切るか如く裂くか如しと雖も此皆子  
 宮頸の開擴に因て然るものなるへし  
 陳痛は増すに従て産婦の脈搏ハ強々急速なり陳痛の減に  
 従て脈搏も亦遲緩成故ニ分娩漸く其極度に達り胎兒の産  
 れ出んとする時ハ其脈搏ハ急々眞其極度に達るべし  
 右に擧る所は陳痛の起る處ハ毎に繰り返して子宮孔(前)の八



丁の圖を見合すべしの開擴充分の度に達して止む者なり又  
 此陳痛ハ其歇止間ハ短シテ痛の有間ハ甚長きものなり  
 第一段の全段中痛みの起伏して止むものなきものハ胎兒  
 を推し出す爲にすまものハ少くして其通路を整齊るか爲  
 にするもの多し又子宮孔の子宮底に正對と子宮軸の尻骨  
 盤上峽の軸に適合するハ開擴に甚た便ふり若し然らざ  
 れハ開擴は多少の不便を發すべし又如斯く子宮孔の開擴  
 に於ては第一段を終りたるものとすべし  
 初産に於てハ其子宮孔の開擴ハ容易ふらざるを通常とす  
 故に其子宮孔の開擴へき時に於てハ引き張るが如く又凸  
 きもの、中より出する如き感覺あり此物と水袋といふ是  
 羊膜の羊革膜胞を包むものにして陳痛の起伏するに從ひ

或ハ張り或ハ弛むものなり此物子宮の開擴を助ると猶ほ  
 大木の木を割く又異ならず兼て胎兒の強壓を防ぐの功能  
 あれば子宮孔は充分に開擴する迄ハ敢てこれに觸まざるを  
 善とす又膜の破る、に及んで液の迸り出るありあれと水  
 囊破裂といふなり  
 第二段ハ推出しに因て胎兒は産れ出ると異るとはよして  
 諸現象ハ第一段と異なる所あり開擴既に終りて胎兒を推出  
 す爲の子宮の收縮ハ増々甚しくなり腹筋及び呼吸筋の大  
 いに之と助け陳痛長くして且つ苦痛も亦烈しく其間ハ始  
 め喉口とも閉て呼吸筋ハ堅固ニ支柱となりて腹筋の  
 緊張ニ抵抗し腹筋ハ此抵抗あるを胎兒を上げ方へ  
 引き揚ぐるに能はず其力と盡して以てこれと下の方に



推し出ををを得るなり腹の筋の緊張は全く自然のものなりと雖も其間は産婦の自奮に属するもの少なうらすり此時に當りての産婦の叫びる第一段の悲叫ふとは自ら殊異なる所なるより又陳痛近付けハ産婦ハ手近の物品を取て手足腹胸又背中の諸筋と張りて以て其勢力を助るとさながら秘結癖の人の廁に登りて煩悶苦痛に堪るが如し膜の時として破裂さるとありと雖も第二段の産痛の始に於て大概ハ破裂するものなり故にある記者は此膜の破裂を以て第二段と始す所となすといへり胎兒の身体先出する部分を収縮せ起し毎又必ず多少進み出て収縮せ体軟毎に必ず少し退くと雖も前に比較ハ猶ほ幾分か外方へ出るものとす若し一度進み一度退き

欠しく舊位に止り如きは諸部全く開攢り分娩するに先立て柔軟なる諸部は綻裂するものあり故に漸次に進めは此危害を防に有要として兼て尻骨盤洞の廣闊を證すも者也第二段の間ハ第一段の間よりも産婦は心惱しからず稍々其兵力と取戻し少しく沈着たる思ひありと雖も若し第二段の間長き時も陳痛は間に睡眠を催すものなり殊に初産に於てハ然りとす又此睡眠は為に産期を延し充血の憂頭痛も充血は微候なりと引き起すものとせず良く之等の事小於ては注意すべし先出部の出る間薦骨神経は壓迫最も強く夫が爲し兩下肢は痙攣と引起事有既頭部先出したる時ハ殊然りとす胎兒の頭部は尻骨盤の縁に至り尻骨盤は洞を過き去り

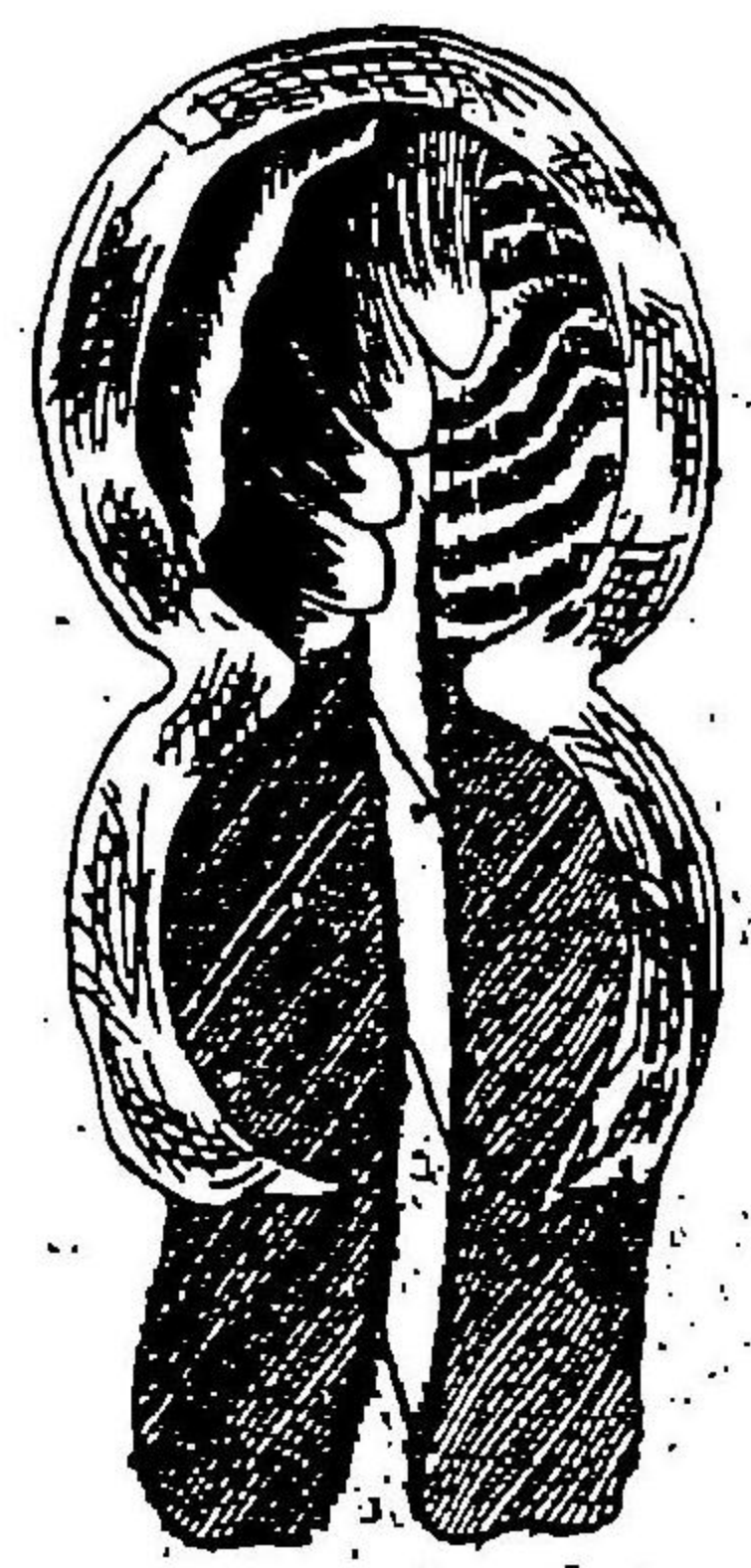


尻骨盤縁に來きハ骨盤下峽ハ柔軟なる部ハ始て開擴り一  
 と陳痛毎に會陰も開擴り又陳痛の休歇も間は少しく收縮  
 て縞々原形に腹せんとして再び陳痛に襲きて開擴り陳  
 痛起り又休も間に一ト度張り一ト度收縮り遂に股の間  
 脹出ると至る此時又當りてハ直腸ハ平匾なりて其中  
 有所比物を排泄しそハ下端に挫々反裡り胎兒ハ先出部  
 一ト度進み一ト度退りて會陰の厚さ殆ど一枚紙に異  
 りざるに至る此時胎兒ハ骨盤内一ト度進み一ト度退く  
 は實に子宮此缺くべからざる動といふべし又若し推し出  
 すは力の激烈に過る時ハ會陰は綻ひ裂るに至るべし又推し  
 出す此力即ち陳痛久しく休歇されハ分娩として却て危か  
 らむむべし又柔軟なる諸部ハ開擴るとき胎兒ハ天頭は陰門

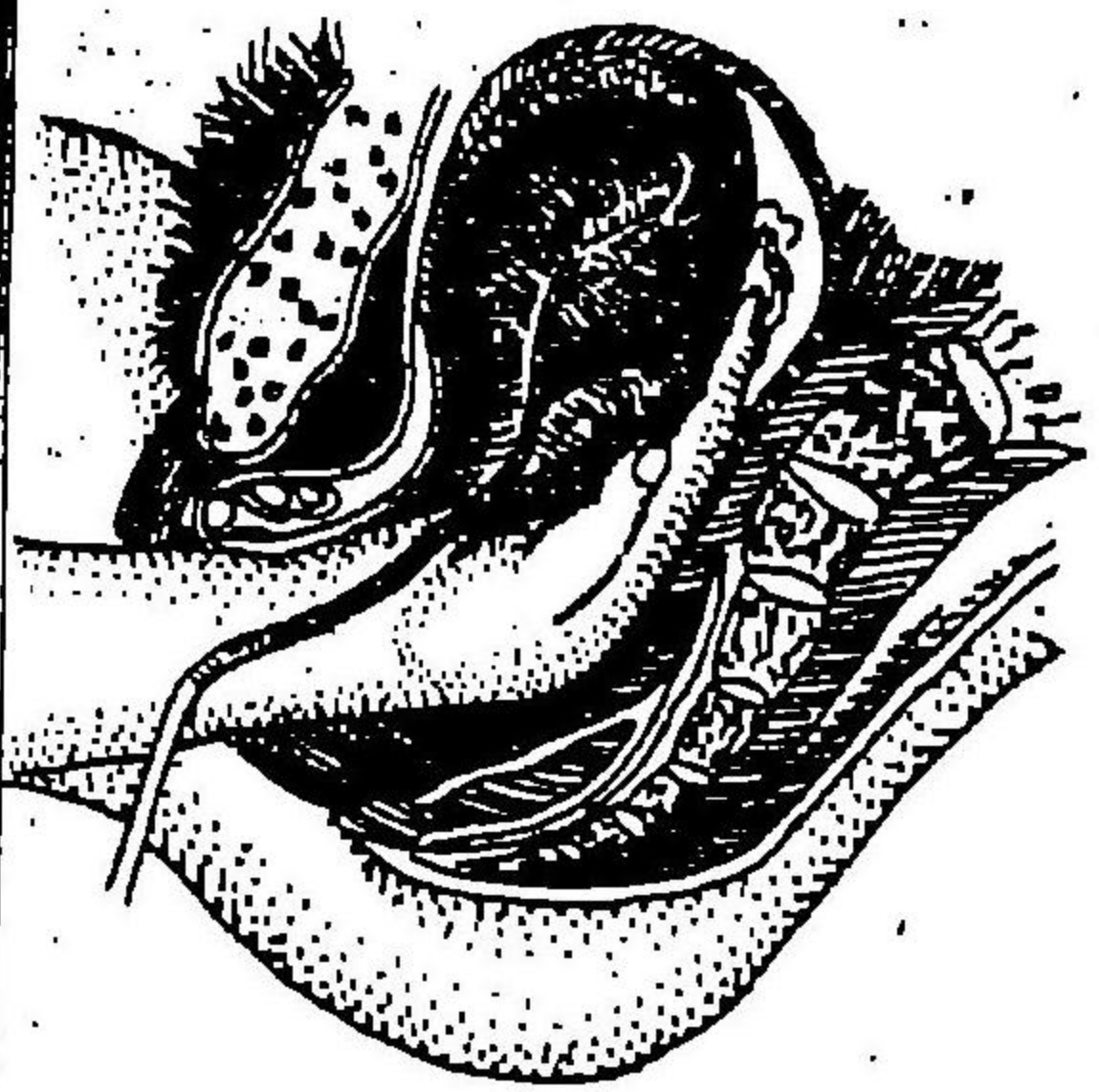
此縁に臨み肛門ハ外方へ推し出され會陰も甚しく開擴り  
 大陰唇も亦に開擴りて分娩ハ期方迫り陳痛前に倍し遂に  
 猛烈きを極るに至りて遂に其産婦も我慢に堪ゆる能ハす  
 知らずとて一聲の苦と叫び小至り此時に方て兒頭ハ忽然  
 と世界に顯るるなり  
 此に至りて始て數分時間陳痛伏退一陳の微き痛を覺ゆるの  
 みまして胎兒ハ全体ハ全く産れ出るに及ぶ  
 第三段ハ胎蓋ハ分娩にして時としてハ胎兒と共に出る  
 とあれども多くは胎兒の産れ出たる後些少の間斷あるも  
 のなり此間斷に於ては更に一定の極りなしと雖も大概ハ  
 二十分時を以て通常のものとなれども或は之より短きも  
 のあり又甚だ長きものあり其長き者に於てハ一時間に至



子宮の収縮を助ける手



手を用いて胎盤を出す



る者も又なすとせ  
す然りと雖も若し  
一時間を過すとあ  
らば多少の申分あ  
るものとす  
前より所の時間  
の長き短きと論ぜ  
す分娩の後には必  
らず子宮の収縮力  
は前より較きバ減  
少なるもの也然り  
と雖も子宮ハ再び

候縮て腎蓋を推し出して臍に至らぬ臍又収縮て終に之  
と臍の外に推し出すものなり又此時血液の逆り出ると  
常とす又此時膜囊は大括反裡すと雖も手にて胎蓋と引  
出す等に於る時ハ必ず反裡するものなり

難産

安産の條に記載したる三段中の第一段尋常普通と過て長き  
とあり然れども母子共に怪我なくして事を終るが如き分  
娩と難産といふ然りと雖も此時間の長きハ未羊膜液囊の破  
裂せざる故に胎兒に急無産婦も亦危き一至とハ甚稀なり  
第二段此刺衝を得て産婦ハ再び精神を取り直し終に安産  
に異らざる程の勢力を回復せしめありと雖も第二段中の時  
間此長きは産婦には甚だ悪く又胎兒の頭尻骨盤の内

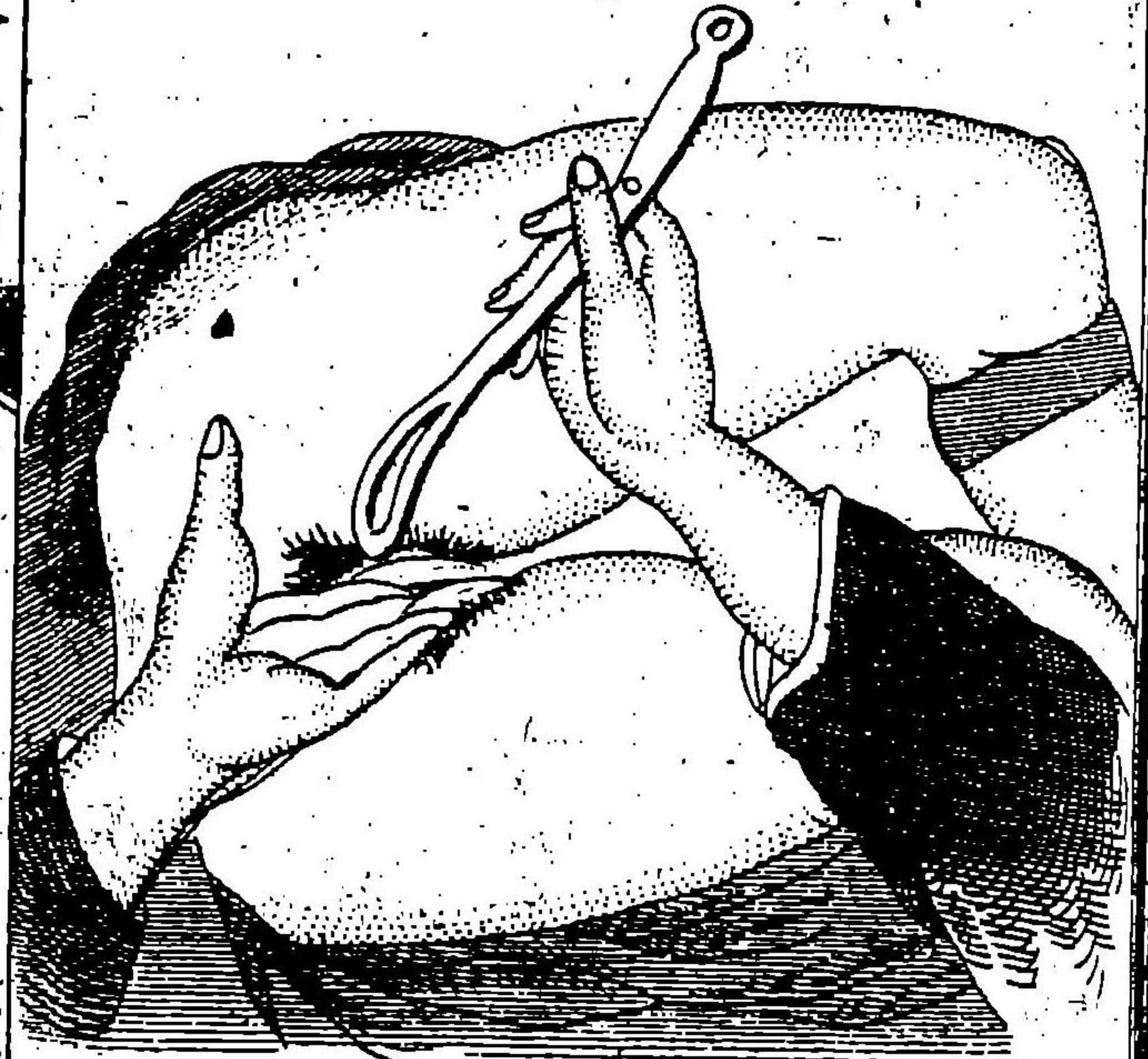


骨部先出の時頭部を引き出さるる圖



止ると八時間ふる時八人の中必ず一人ハ死す也反八時間と過と僅ら成も大抵子宮の痛不極に也痛の強くして其效驗無膚乾きて熱し嘔吐を催し脈搏ハ急にして微く口中渴きて惡臭を發し産婦の身体漸々衰弱をるに至るこの時壓迫と蒙る諸部分ハ居部の變を生し黃白して惡臭あり蒸發氣と

鑄子を膈に入らるる圖



起し益々久しけれハ炎症壞疽之續く此時は早く輕減法を施さばれ産婦の若痛愈々甚ましく半狂半愚の狀態を顯はし死して其若を免るの外は決して道なきに至るべし

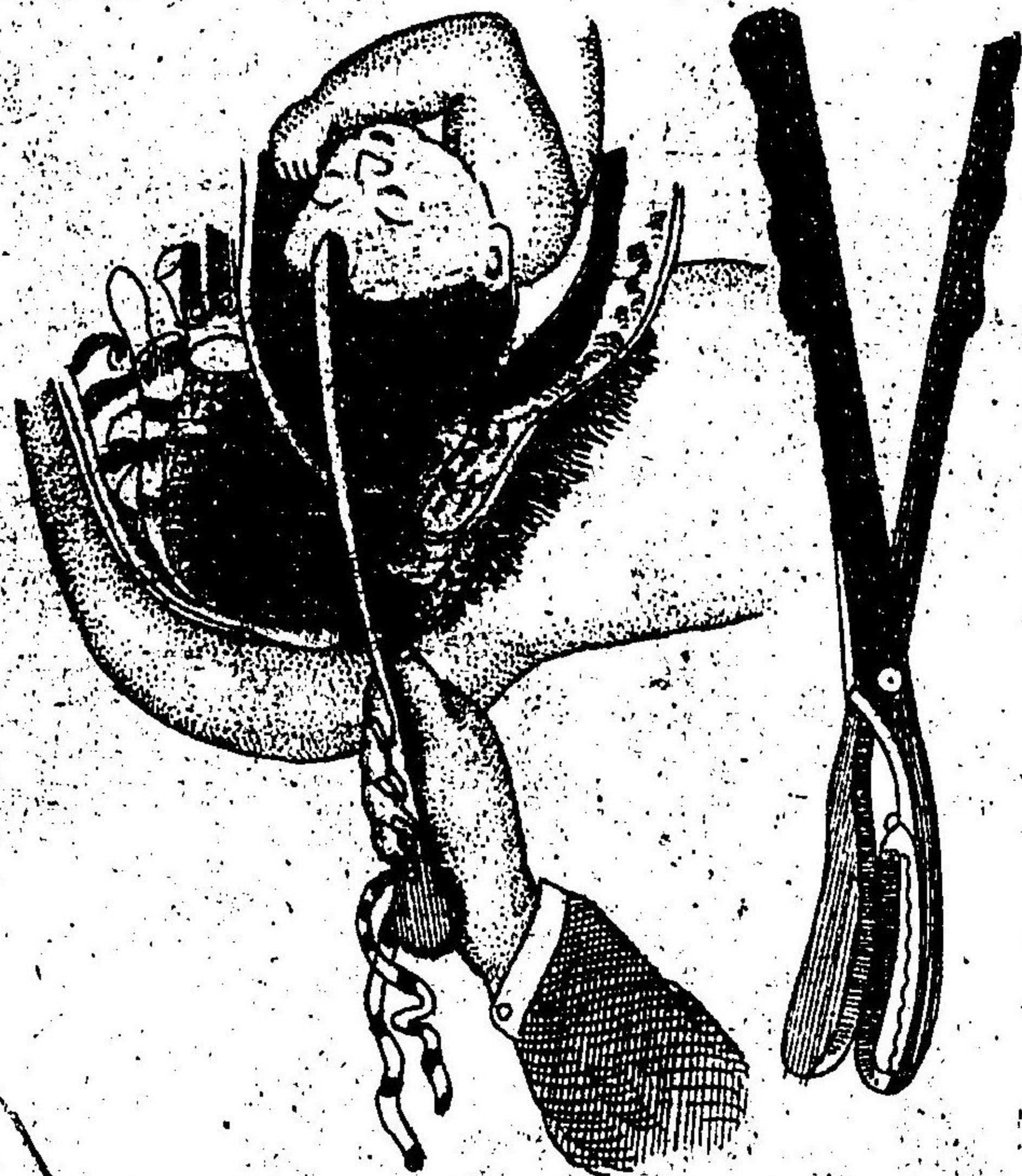


圖ヲ挟頭てと鑷  
むと兒以ら子



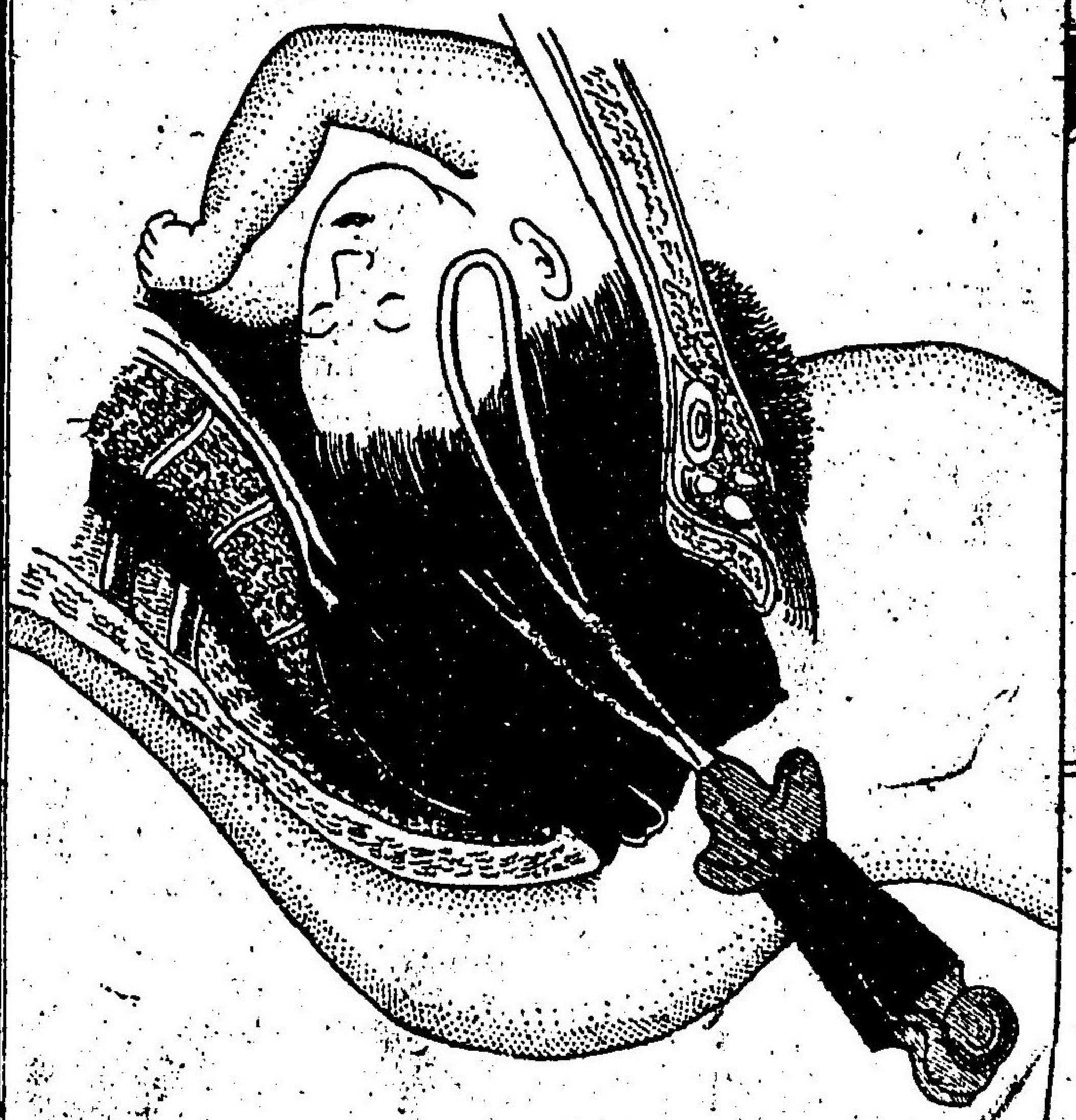
の破兒  
圖く頭  
鑷と  
子碎

破頭以鑷  
くのをて子  
の碎兒を  
圖

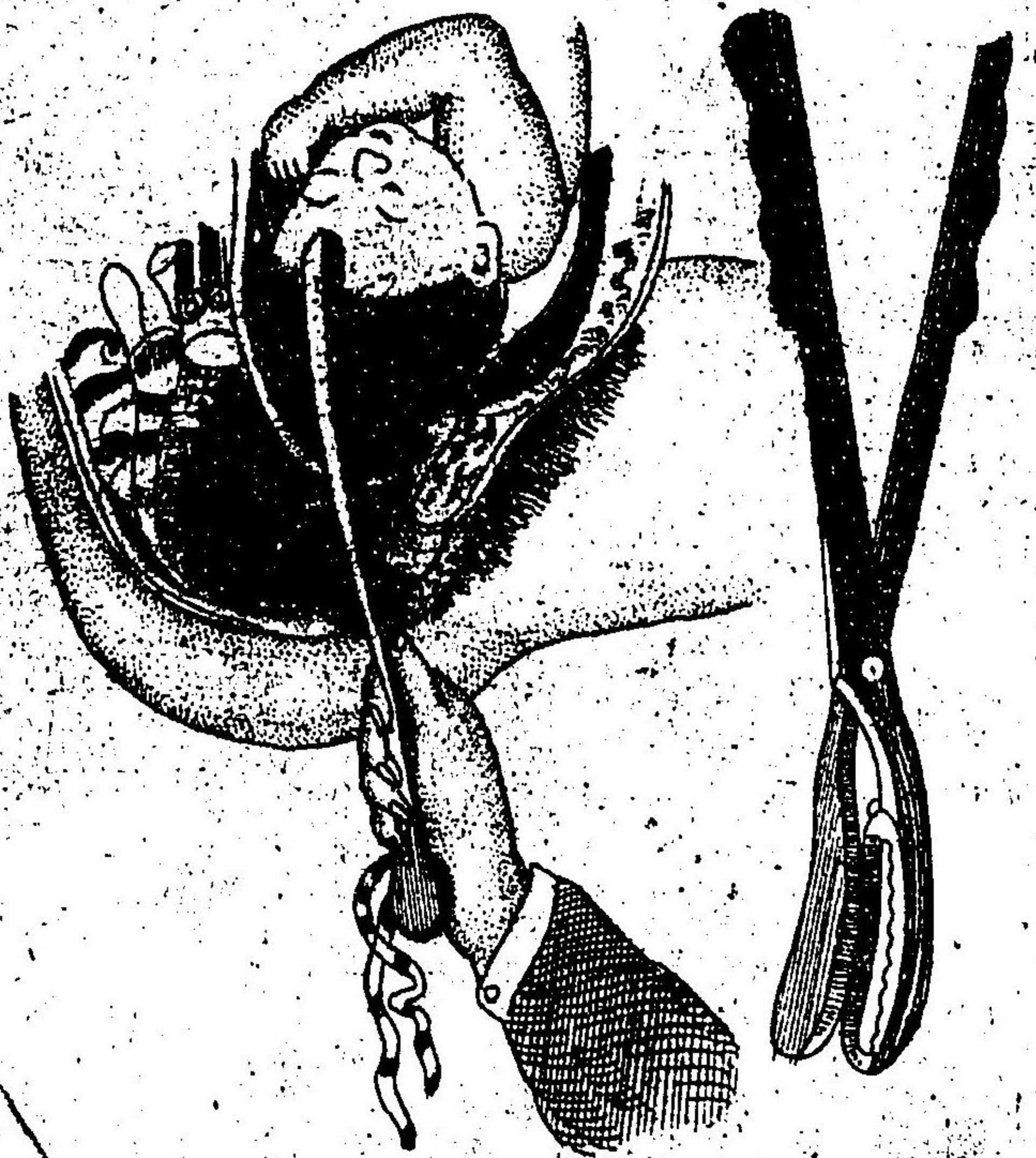




圖ヲ挾頭ヲてを鑄  
むを兒以子



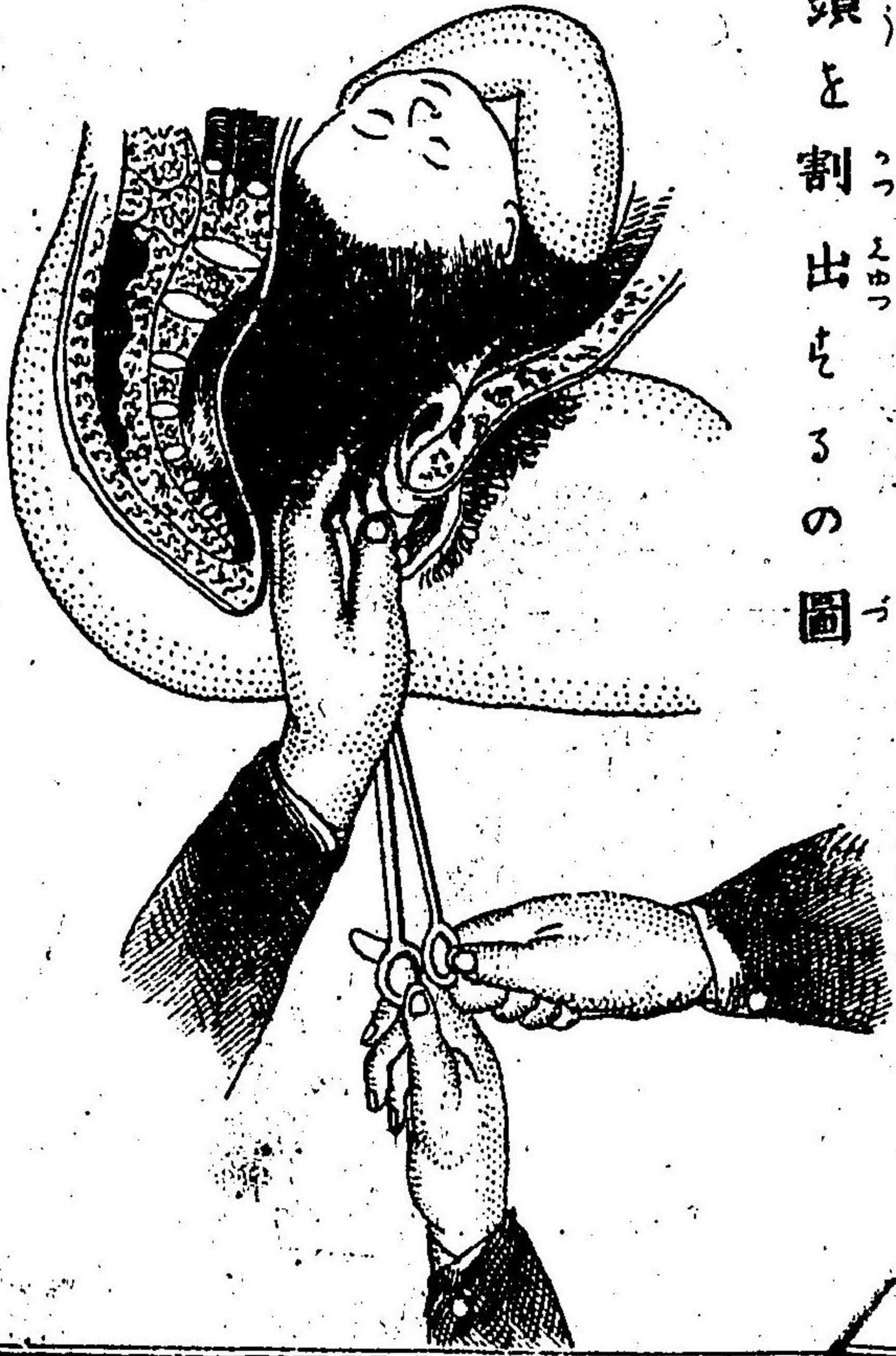
の破兒頭を  
圖ヲ鑄子碎



破頭以鑄子  
くの碎兒と  
圖ヲ



兒頭と割出せるの圖

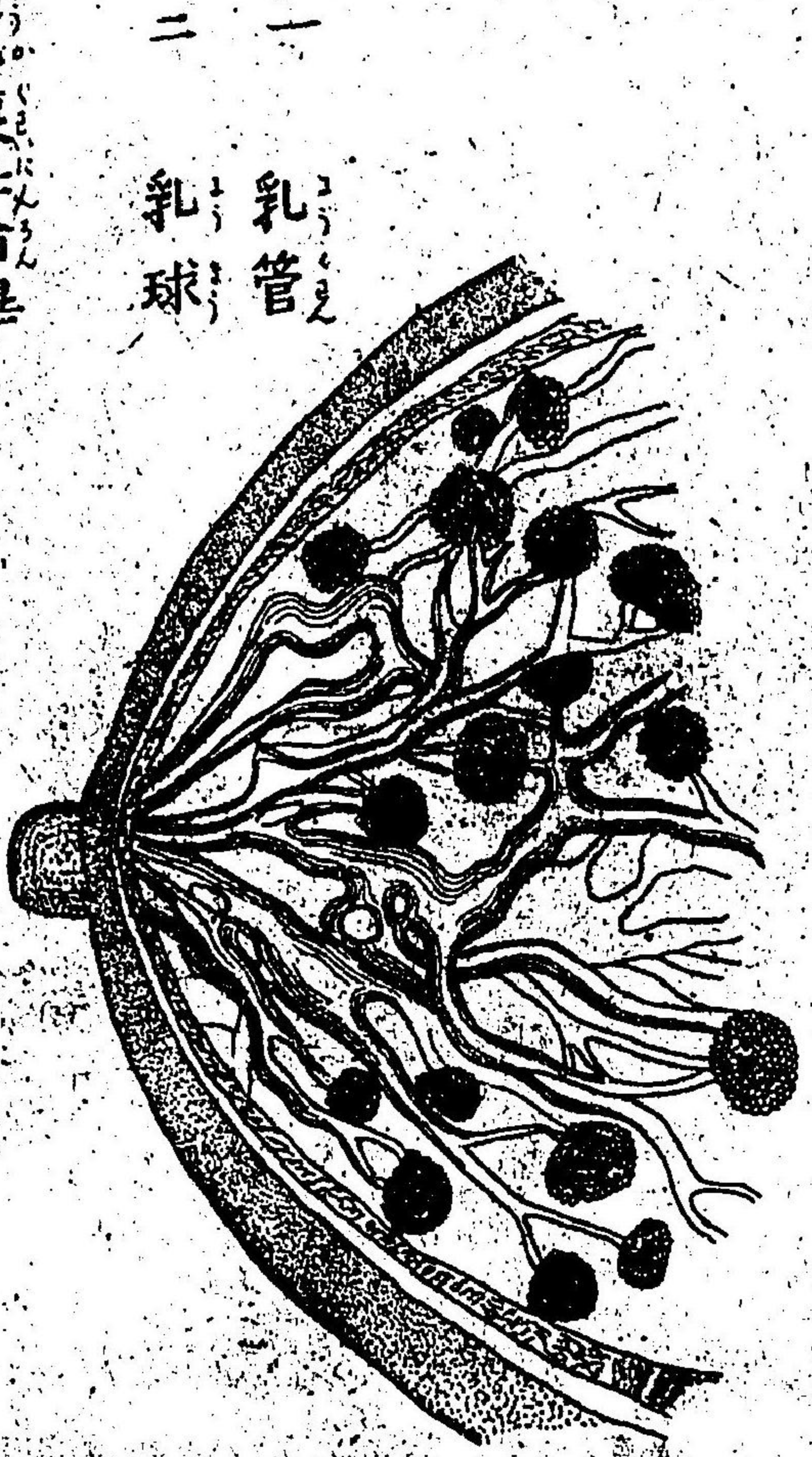


「ウエクニス」の器械を用ふる圖





乳腺横斷の圖



造化懷妊論畢

明治十八年二月十日 翻刻御届  
年三月 出版

原版人 池ノ谷文一郎

日本橋區室町三丁目六番地

翻刻人 井上勝五郎

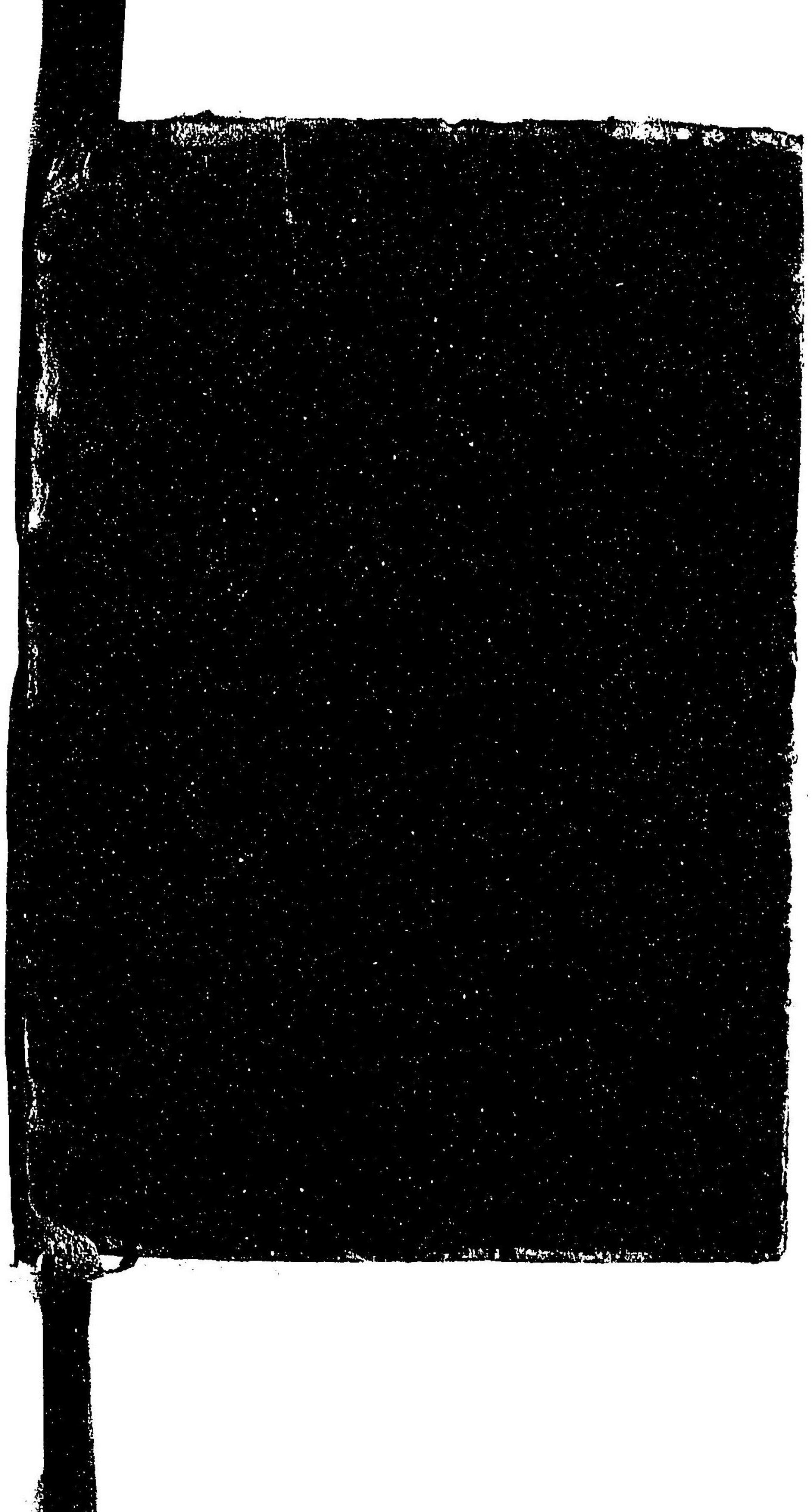
京橋區南紺屋町一番地

發兌 薰志堂

定價 貳拾錢

賣捌 全國各書肆







特59

771

059925-000-8

特59-771

新撰造化懷妊論

池ノ谷 文一郎 / 刊

M18

CBI-0184

